『医心方』の伝写について（X）

―関連書目―

杉立義一

『医心方』に対する関心・評価を知る一助として、明治以降に発表された『医心方』関連書物目録を作ってみた。もちろん私の目にふれた範囲であり、また分類の方法にも問題はあるが、本稿では各題名は省略し、その出現数値のみをあげる。なお括弧のないのは雑誌等に発表された論説・報告等であり、括弧内の数字は刊本である。

〔一〕標題に『医心方』または丹波氏・和気（半井）氏とでているもの

一　内容により

㈠復刊…全巻(5)　一部(6)

㈡伝来または書誌学…45

㈢全般の解説…20、(4)

㈣各巻の解説・訓読

序説…19、(1)　鍼灸…6、(2)　本草…7　房内…(8)

産婦…4　口腔…4　養生…2、(1)　内科…1

外科…1　食養…(1)　小児…1

㈤丹波氏…17、(1)　和気氏…10、(2)

㈥国文学…4、(1)　国語学…4

㈦一千年記念…8、(1)

計　一五三・三三　合計一八六点

二　年代により

明治…4、(2)　大正…4　昭和元～9…1、(3)　昭和10～19…8、(3)　昭和20～29…2　昭和30～39…5、(3)　昭和40～49…4、(8)　昭和50～54…23、(6)　昭和55～59…36、(3)　昭和60～平成元…66、(5)

合計一八六点

〔二〕標題に『医心方』とはでていないが、その内容に『医心方』関連記述を含むもの（刊本・論文とも）

明治…13　大正…12　昭和元～9…12　昭和10～19…19　昭和20～29…8　昭和30～39…24　昭和40～49…32　昭和50～54…27　昭和55～59…46　昭和60～平成元…55　合計二四八点

〔三〕明治前書目

『大日本史料』第一編之二十一に記載してある書物及び私が目にしたもの合計六九点。但しこの中には『医心方』の各種写本及び安政刊本は含まない。

まとめ

〔一〕一八六点のうち伝来・書誌学的研究・和・丹両家の家系・人物紹介等がもっとも多い。中国文五点・英文二点がある。

年代的にみると、昭和四十年代には房内篇の解説本が集中的に刊行された。昭和五十年代になると東洋医学の再評価に伴って、『医心方』の訓読・解釈が行われるようになった。とくに一千年記念事業の行われた昭和五十九年（二六点）および昭和六十年（三五点）がもっとも多く、その研究内容も多様化してきた。その結果、『医心方』は中国古医書の丸写しにすぎないという従来の定説をうちやぶり、わが国情・風土に適した医書としての独自性が評価されてきた。さらに一千年にわたる伝写の系統も解明されてきた。

（京都医学史研究所）

『本草色葉抄』所引の医学文献

真柳　誠

『本草色葉抄』は惟宗具俊が弘安七年（一二八四年）に撰述した、鎌倉時代を代表する本草書である。本書の伝本は少ないが、内閣文庫所蔵の室町中期写本が石原明氏らの解題を付し、昭和四十三年に同文庫より影印出版されて利用可能となった。

本書は『大観本草』（一一〇八年初刊）中に見える薬名の記載巻次の検索を主目的とした、一種の本草辞典である。またそれ以外の薬名についても、本書に先行する『本草和名』（九一八年頃成）から数多く転録する他、独自に各種漢籍より引用している。それらの大多数には出典も記されており、文献名は転録も含め全体で約一四〇種に上る。

ところで鎌倉時代に伝存、あるいは新たに伝来していた医書を把握しうる史料は少ない。しかし本書の所引文献を解析するならば、当時の情況に光を当てることが可能であ